



# 福祉系

# 対人援助職養成の

## 現場から 55

### 西川 友理

#### 実習後の評価表

保育実習が終わり、評価表が実習先である各保育園から返却されてきました。

実習先の先生方は大変誠実に評価してくださっています。出来ているところ、出来ていないところ、もう少し頑張ったらこれが出来るよ、というところ。色々とほめてくださっている文章はもちろん、ちょっと理解や努力が足りないと感じられる学生に対しても、どう表現したら学生がめげずに頑張ろうと思えるかなあと試行錯誤して書いて下さってい

ることがしっかりと伝わってきます。

養成校によっては、実習先から返却されてきた評価表をそのまま学生に見せるところもあります。一部だけ見せるところもあります。学生には直接見せずに、指導教員が要約して内容を伝える所もあります。

いずれにせよ、学生への暖かなメッセージが込められていますので、実習以後の学習や次の実習に活かすことが出来るように、何らかの形でしっかりと学生に伝えている養成校が殆どだと思われるます。

## 評価の観点

お仕事お忙しい中、評価くださることは本当にありがたく、嬉しいことですが、ほんのたまに、あら？と思う評価があります。その代表的なものが「どんどん子どもを引っ張っていくような、明るく元気で大きな声の保育士さん」を求められているのかな、という評価です。

実習の記録もばっちり、出来事に対する考察も申し分ない、積極的に自分であることを見つけて動く、わからないことがあればしっかり質問、実習先のルールを守り、誠実で倫理的で努力家……ではあっても、

「なんだか元気じゃないよね」

「おとなしいですね」

「声が小さいよ」

と評価される学生が一定数おります。

そこで西川は現場の実習指導担当者の先生に問いかけます。

「その学生は、活気や、いきいきしさが  
ない、ということでしょうか」

すると先方は我が意を得たりとばかりに

「そうそう！何かキラキラしてない、元気がないんですよ。」

と仰います。このように評価されてしまう学生が一定数いるのです。

## 活気やいきいきしがないと

### 評された学生

そう評価された学生のうち、やる気がないとか、心身が不調であるといった理由で元気に動けないという人達も一定数います。そういう学生にはもちろん、教育や指導、あるいは相談、時には医療的・心理的なケアが必要です。

しかし、毎年何人かは、

「うーん、わたし大きな声を出してるつもりなんです」

「積極的に自分から動いているつもりなんですけど…」

と困惑する学生がいます。

そこで西川は質問を変えます。

「E テレの幼児番組のお兄さんお姉さんのように、張り切って元気に動く、というかんじ、子ども達みんなの前で主導するような動き方、そういう動き方とかはしていたかな？」

すると、このような返事が返ってきます

「え、そんなの、絶対無理です！」

「そんなこと出来ませんよ…」

「基本的にあまり子どもたちに対して、“はいみんな、こんにちは！”みたいなことはしたくないです。」

「なんだか芸人さんみたいじゃないですか。」

そして、私に聞いてきます。

「そういう動き方、しなきゃダメですか？」

…そういう動き方を求められている実習先はあるとはわかっているけど…園の先生方、すみません、簡単に、「そりゃ、もちろん！」とは、言えない西川がいるのです。

## E テレのお姉さん・お兄さん

毎日テレビの中で、幼児たちとともに、明るく元気なリアクションで、歌を歌ったり、手遊びをしたりしている、子ども達のアイドル、E テレの幼児向け番組のお兄さん、お姉さん。

なんとなくですが、保育者には、ああいうアイドル(偶像)的な姿をしてほしい、というイメージがある人が多いように感じています。それは、保育者でない人(保育現場の専門職としての保育者としての姿は知らない人)はもちろん保育現場にも結構たくさんいらっしゃいます。

「あそこまで大げさに、ではなくても、ああいう姿勢は欲しいところなのよね」とおっしゃる園長先生は1人や2人ではありません。

### お姉さん・お兄さんの正体

ところで、NHKの幼児向け番組のお姉さん・お兄さんは保育者なのでしょうか。ちょっと一度調べてみよう、と思って、E テレの代表的な幼児番組「おかあさんといっしょ」の歴代の歌のお姉さん、お兄さんの経歴を調べてみました。

まずはお姉さんです。初代うたのお姉さんは歌手・女優の中野慶子さんと、歌手・声優で声楽科出身の真理ヨシコさんの2人で務められたたようです。この初代から、現任のお姉さん、ながたまやさんに至るまで、お姉さんはほとんどの

方が音楽大学や芸術大学で声楽を学んでこられた歌のプロの方です。出身大学だけでなく、前職で宝塚音楽歌劇団、劇団四季、童謡歌手をされていた方など、歌を中心とした表現活動をされてきており、引退後も童謡歌手やタレント、ミュージカル俳優さんなどを務めていらっしゃる方が多い様子です。

次にお兄さんです。1965年、初代のうたのおにいさんが高橋元太郎さん。何かどこかで名前を聞いたことがあるな…と思って写真を見て驚きました。昔、時代劇の『水戸黄門』でうっかり八兵衛をしていたあの俳優さんではないですか！さらには2代目が田中星児さん。私よりもちょっと上の世代の方はよくご存じだと思いますが「ビューティフルサンデー」を歌っていた方です。そして三代目が水木一郎さん！アニメソングの帝王である水木さんが歌のお兄さんをしていたなんて、私は全く知りませんでした。ちなみに水木一郎さんの「アニキ」という愛称の由来も、歌のお兄さんをしていたから、ということらしいです。その後、1990年代まではポップス歌手の方や俳優さんが歌のお兄さんを務めていらっしゃいます。その後、2000年代から現在の花田ゆういちろうさんに至るまでは、音楽大学の声楽科などを卒業され、その後劇団四季などでミュージカルを経験された方、つまりお姉さんと同じような経歴を持った方が出てられています。

つまり、少なくとも「おかあさんといっしょ」の歌のお姉さん、お兄さんの中に、保育者はいないということになりま

す。歌手や俳優、タレントといった、エンターテイナーばかりです。(ただお一人、引退後に保育幼児教育の仕事をはじめた方がいらっしゃいます。1980 年前後に 13 代目を務められた奈々瀬ひとみさんは、うたのおねえさんを引退されてから、幼稚園教諭の資格を取り、現在東京の幼稚園の園長先生をなさっているようです。)

保育士の仕事は子どもを楽しませることではなく、子どもの発達を支援することです。その一環として、楽しませることもあるかもしれませんが、少なくともエンターテイナーに徹する必要はありません。私も個人的には子どもの前でパネルシアターを演じたり、手遊びをしたり、絵本の読み聞かせをしたり、という事は大好きなのですが、そのどちらも子どもとやり取りをすることを大切にしており、「子どもを楽しませよう、面白くて質の良い児童文化財を提供しよう」ということが、そこまでできるとは思っていません。私は保育士であってエンターテイナーではないからです。

「おかあさんといっしょ」自体は、しっかり考えられて練られて作られている、とてもいい番組だと思います。皆さん本当に美しい歌声ですし、いい歌も沢山、お話も面白く、キャラクターも魅力的、内容の構成も子どもにぴったりです。だからと言って、あの番組が保育の見本か、というと、そうではないと思うのです。

「おかあさんといっしょ」のホームページには番組紹介として「2 歳から 4 歳児を対象とした教育エンターテインメント番組です。」と書かれています。

そう、エンターテインメント番組なのです。その出演者が保育者と同じように考えてしまわれては、ちょっと違うのではないかなと思います。

## 「いきいきしさ」とは

この連載の第 21 回目に、日本のフレーベルとも言われている倉橋惣三の著書『育ての心』にある言葉、「いきいきしさ」という言葉を紹介しました。

「子どもの友となるに、一番必要なのはいきいきしさである。必要というよりも、いきいきしさなくして子どもの傍らにあるは罪悪である。子どものもっとも求めてある生命を与えず、子どもの生命そのものを鈍らせずにおかないからである」「あなたの目、あなたの声、あなたの動作(中略)あなたの感じ方、考え方、欲し方のすべてが、常にいきいきしているものでなければならない」「いきいきしさの抜けた鈍い心、子どもの傍では、このくらい存在の余地を許されないものはない」<sup>注1)</sup>

倉橋はこのようにいきいきしさについて説明しています。

いきいきしい、つまり、いきいきしているさま、とはどういう状態でしょうか。

NHK のお姉さんお兄さんのようなあの態度がいきいきしている態度なのでしょうか。

## うたのお姉さんお兄さんの的でない

## 関わり方

Aさんは、何度かある保育実習・幼稚園実習の第一回目で散々な評価を受けました。

「悪い学生さんじゃないのはわかります、でも、ものすごくおとなしい方ですよね」

「一人でいる子や、おとなしい子に話しかけるということをしてないんです」

「みんなに呼びかけて、集団を動かすという事が難しいようなんですよ」

というわけで、評価を知ったAさんは落ち込んで…はいませんでした。

「評価、低いですよね。わかっています。」

「実習先の先生方の求める保育が出来ないってことには、ちょっと悩んでいました」

「やっぱりそれが保育者なのかなあと、みんなの前でキラキラ元気に統率をするのが、保育者なのかなあと思ったりもしたんですが…むやみやたらに自分の世界に入り込んでくる、というかねじ込んでくる大人って、私自身が小さい時しんどかったから。」

そう言って最後に、

「…まあ、でも、正直言って“ハイみんな、こんにちわー！”っていうノリが出来ないというのはあるから、言い訳だったのはわかっているんですけど。」

と言って笑っていました。

ところがAさんが次に行った実習先では、大変高い評価を得てきました。

その園の先生がおっしゃっていました

「あの学生さん、すごくいいですよ。何がいいって、子どもを待てるんです。」

「待つってほんとに大変なのよ。子どもの事、よく見ないといけないし。でも、ちゃんと待つと、子どもはとっても安心するの。Aさんはそれが出来る学生さんなんです。」

「ぜひうちの園に欲しい人材です。就職試験に誘ってもいいですか。」

そしてAさんは、2回目に実習をした園を受験、就職していきました。

子どもより大きな声を出した保育者は、上司から注意される、という園をいくつか知っています。

その園に就職した卒業生が、上司に注意された言葉を教えてくれました。

「あなたが主役になって主導して引っ張ってどうするの。ここでの生活の主役はあなたじゃないのよ。」

「あなたと子どもが一緒になって、生活をつくっていくのよ」

そう指摘されてハッとした、と言っていました。

この園は子どもとの話し合いをとっても大切にされていて、クラス全体の対話の時間を毎日しっかり設けているとのことでした。壁には、子ども達が描いた絵が沢山貼られています。そのひとつひとつに、5~6行にわたり、子どもと保育者や周りの子ども達とどんなやりとりをしながら書いたのか…例えば何を描いてあるとか、どういう思いで描いたと言っていたとか、保育士とどんな話をしながら描いたとか、どんな表情だったのか…エピソードが保育士の手で書かれています。その内容を一つ一つ読んで

いると、先生方が一人一人とじっくり向き合っておられることがじんわり感じられます。

NHKのお姉さんの関わりではない保育でも、子どもが安心できるような、子どもと共に日々を作っていけるような保育が出来るようです。そしてそれを感じる保育者の、目、声、動作、感じ方、考え方、欲し方が、倉橋の言う「いきいきしさ」に満ち溢れたものであることがわかります。

いきいきしいとは、保育者自身が世界を肯定的に捉えて向き合っていること、子どもの存在を肯定的に捉えてむきあっていること、その心からにじみ出る態度やあり方ではないかなあと感じています。その態度やあり方の表現は、NHKのお姉さんのであったり、じっと静かに寄り添う姿で会ったりと、人によって違うでしょうが、「生き生きと世の中を捉えている」という事があるのではないのでしょうか。

### それぞれの「いきいきしさ」

それぞれの保育園・幼稚園・認定こども園には、その園の目指すべき姿や保育者像があるのだと思います。実習生が、それにそぐわない保育の姿であった時には、ちょっとこの実習生は指導が必要だな、という感覚に陥るのは当然だと思います。

しかし、「自分の園の後輩」を育てて

いるのではなく「この国の国家資格を持つ後輩」を育てているという視点で、一度学生を見て頂くことは出来ないでしょうか。

自分の理想とする保育、よいと考える保育ではない保育をする学生にたいしても、「本当にそれって良くない保育？いきいきしさのない保育？私が「いきいきしい」と感じる保育は、絶対的なものなのかな？と立ち止まって考えてみたいと思うのです。それは、子どもより大きな声を出してはいけない保育園の先生だって一緒です。子どもより大きな声を出す保育はいきいきしさがなく、よくない保育なのかな？と考えることも必要だと思います。

子どもの人権侵害になるようなかわりかたでなければ、「いきいきしい保育」には、色んな保育があるのではないかなあと感じています。

いろんな学生さんが、自分なりのいきいきしい保育を、私に教えてくれる日々です。

注1) 倉橋惣三著 「育ての心」『倉橋惣三選集 第三巻』P33 フレーベル館 1965年